

呼吸を制する者は咬合を制する

ごんどう矯正歯科 権藤 総一郎



略歴

- 1990年 福岡歯科大学卒業
- 1991年 矯正科入局
- 1992年 同大学院入学
- 1996年 大学院卒業
- 1996年 矯正認定医取得
- 1997年 同医局医院退職
- 1997年 ごんどう歯科 2Fにて 矯正歯科開業

大学院では、ラットに自作の斜面板を装着し一時的に顎変形症を発症させ、その後斜面板を除去し変形のリモデリングを考察した。その際、生命の力強さを感じた。認定医取得後の1997年、父の歯科診療所の2Fに親亀の上に小亀が乗るが如く矯正歯科を開業。父の一般歯科診療を横目に医局では抜歯、非抜歯論争を経験。父の影響か自然とMEAWのKIM先生を師事として臨床に励む？

その頃、実弟と歯科大の友人が耳鼻科医になりさらには同医局に入局。当然ながら呼吸への興味を持ち、口呼吸への挑戦、原因の究明が始まる。特に、患者から耳の聞こえが良くなった、鼻が通るようになった、などの声を聞きますます使命感を感じた。そして西日本矯正歯科学会最後の福岡大会においてアレルギー性鼻炎とレーザー治療について報告し、その4年後、新たになった九州矯正歯科学会第4回の佐賀大会で柳澤先生にご講演いただいた。

現在ムーシールド、そしてマルチファミリー、ちょっと小さいサイズもあるU-conceptの順でお世話になっている。これら筋機能の不調和(バクシネーターメカニズム)を誰が惹起するのか？低位舌の背後に、アレルギー性鼻炎の影を感じて治療に勤しむ。今回は、私見ながらこの影(黒幕?)の報告ができれば幸いかと思い重い腰を上げ上京する次第である。また、昨今患者との意思疎通のツールとして点鼻薬を利用している。我々(患者と私)の目標は鼻呼吸である事を共通認識できるようになった感があることも報告したい。

我々は、呼吸の屋台骨である鼻腔、目、耳を支える柱を修理修正(矯正)する職人であることを自負しなければいけない。そのためには、その建造物の構造を熟知し、なおかつ自然と重力を体感、理解することが必要なのではないか？と考える。よって暇なときは絵を描き、サーキットにて横Gを感じながら車の構造を勉強し、さらには母なる海でウインドサーフィンして自然に揉まれながら日々研鑽する今日この頃です。